
手袋と手繋ぎ 繋がった心と愛

刹那

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

手袋と手繋ぎ 繋がった心と愛

【Nコード】

N9624M

【作者名】

刹那

【あらすじ】

寒い冬。そんな季節にあった甘いオリジナルストーリー。手違いで同じ作品を投稿しています。すいません

（前書き）

第二回、おもいつき余興小説。
興味があつたらお読みください。

もう冬だなあ〜。

マフラーを首に巻き、学校の下駄箱の前で待つ俺。
だれを待ってるかって？

ふふん。決まっているだろう。

俺の彼女をさー！！

あいつは生徒会長やってていつも帰りが遅い。

だから帰りを待つんだ。

普通、平凡の俺にはもったいないくらいの彼女をな！

「ごめん。まったあ？」

しばらくした後、我が愛しの彼女。栗原愛羅^{くりはら あいら}がやってきた。
相変わらず美人だな〜。

いかにいかに。われを取り戻さなければ。

「良いって良いって。もう慣れたし」

「そう？じゃあ良かった」

うおおおお。その笑顔可愛い！！！！ダメだ！ 萌え死
にしちまう。

「じゃあ行くか」

「うん」

理性を取り戻せ。俺は今日やることあるんだ。

そう！ 今日は、

愛羅と手を繋ぐ！！！！

だからマフラー巻いても手袋付けないんだ。

ついでにこのマフラー愛羅の手編み物だぜ！　うらやましいだろ

う。はははははは。

いかにいかに。また脱線しちゃった。

さあ今日、絶対成功させてみせる。

「寒いね。京くん^{きょうくん}」

「ああ」

「早く、春にならないかな？」

「そうだな」

「手え、つめたあ」

「ああ」

やべ！テンパッテル。なんでこんな無愛想な返事ばかりしてんだ
よ俺！

ってあれ？手が冷たいって……。

なんと……！！愛羅も手袋をつけていない。

これは又とないチャンス……！！

そつと握って。

「俺が暖めてやるよ、ってうわわわわ！俺最高！
だめだめ。」

どうしたんだ？俺？

「手袋持つてくるの忘れちゃってさあ……。あれ？京くんも？」

「ああ。俺も」

ちやつつんす……！！

あれ、でも朝愛羅は手袋付けてたはずじゃあ……。気のせいかな。

「寒いね」

「ああ」

いまだ……！！！！

俺は愛羅の手に向かい手を突き出すが……。

「ねえ！！」

「うおい！なんだ？」

あつぶねえ！！

「凄い返事だね。えっとね…その…明日暇？」

明日？まあ暇だな

「暇だけど…」

「そっかぁ…」

え？それだけ？

マジかよ。明日家に来る？みたいなオチかと思ったのによ！

「手が赤くなつてきちゃった」

今だ！！！！

「ほら」

両手をこちらに伸ばす。

「うおい！！ホントだな。真っ赤じゃねえか！」

くそおお。神様のバカ野郎。

ここから愛羅と分かれる交差点までの距離だとチャンスは後一回。

次が勝負！！

「今日はつかれたなあ」

今だ！！！！

スカ！俺の手は空を切る。

愛羅は自分を抱きしめるポーズで寒さを紛らわしている。

もう！ばか！！！！

「じゃあ、ここでお別れだね」

「ああ」

「かえったらメールしようねえ」

「おう」

手繋ぎ成功ならず。

「ばいばーい」

パタリとスカートのポケットから何か落ちる。

チエツク柄の手袋……。

あれ？

俺は拾おうと手を伸ばすとそれより早く愛羅がその手袋を掴みポケットに入れなおす。

「ちちちちち、違うの！別に手が繋がったとかそんなんじゃないくて…もう…！」

愛羅は俺にそっぽ向いて走っていく。

わかりやすい奴だと思う。

「待てって…！」

俺の叫び声で愛羅は走るのをやめる。

俺は走って愛羅に追いつき、横に並んで言った。

「今日は特別に家まで送ってやる」

俺の言葉に愛羅は……

「じゃ！お言葉に甘えて……」

ゆっくり並んで歩く。

「さっき何も見てないよね??」

無言の殺意を愛しの彼女から感じる。

だから俺は

「なんも見えてねえ」

と言って、そっと愛羅の手を掴んだ。

凄く冷たくて、でも暖かくて。

「なら良いけど」

愛羅はそう言っただけ俺の手を握り返した。

やっと繋がった。

手を繋げた。

その時、俺は改めて愛羅の「愛」を感じた。

俺達は繋がっている。

いつまでも。これからその先も……。

（後書き）

最後までご覧いただきありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9624m/>

手袋と手繋ぎ 繋がった心と愛

2010年10月13日05時45分発行